

そほう
組報

かながわ

No.4 1991.3.15

身近なお寺の情報誌



仏の教化のあよふところ、國も郡も町も村も、その教えのめぐみを被らぬところはない。そのため、世の中はなごやかに治まり、日月は清らかに照り、風雨はほどよく時を得、もうもろの災さらにおこらず、國は富み、民は安らかに、軍隊や兵器もまったく用がなくなる。また、人びとは徳をあがめ、いくしみをおこし、つとめて礼儀を重んじ、たがいに譲りあうのである。

(仏説無量寿經)

浄土真宗本願寺派

そほう かながわ 第4号

顕如上人
本願寺寺基移転

四百回忌

記念法要を迎えて

本年四月から五月にかけて、西本願寺において、「本願寺第十一代宗主

顕如上人四百回忌・本願寺寺基京都移転四百年記念法要」が厳修されます。

期間中、全国各地から約十五万人の参拝者が見込まれています。

そこで、そもそもこの法要はどのようなものなのか、

四百年前の本願寺にスポットをあててみましょう。

戦国時代と本願寺

本願寺の第十一代目の宗主である顕如上人（一五四三～九二）は、戦国時代、本願寺を巻き込んでの戦に明け暮れた時代を生きられたご門主であります。

当時の本願寺は、日本全国に人口のおよそ三分の一の門徒を擁していました。特に一向一揆（反領主運動）は、戦国諸大名にとつても頭の痛い存在がありました。

中でも加賀の一向一揆は、門徒の国をつくったことで大変有名です。このように、大名勢力の駆け引きのなかで、本願寺もその渦中に入りまして、戦国大名とは違った形態ではありますが大きな権力を持っていました。特に一向一揆（反領主運動）は、戦国諸大名にとつても頭の痛い存在であります。

信長の軍勢との闘いは、本願寺の財力と信長に勝るとも劣らない兵力、そして、それを支える門徒の愛山護法の思いとにより、およそ十一年の間（一五七〇～八〇）、三

次にわたって続きました。しかし、朝廷の仲介による講和（本願寺の事実上の敗北）というかたちで終結しています。



本願寺第11代宗主 顕如上人

石山の法難

顕如上人の時代は、本願寺が織田信長と直接闘わなければならぬ時代でした。当時の本願寺は大阪の石山というところにありました。現在の大坂城本丸のあるところです。そのため信長との闘いを石山の法難ともいいます。

の火は三日間燃え続け、石山本願寺は灰塵に帰したことです。そのような教如上人には、その後にも多くの取り巻きがありました。そして、徳川家康が政権を握ると、本願寺の強大な勢力を分散させるために教如上人を援助することに決め、一六〇二年に七条烏丸の地に寺地を寄進しました。これが現在の東本願寺で、以後本願寺は東西に分かれることになります。

一旦は長男の教如上人が宗主となりますが、顕如上人の譲状により三男の准如上人が正式に第十二代宗主となります。

＊＊＊

東本願寺の分立

部屋住まいの身となつた教如上人は、石山の法難の折には、信長との和睦に反対するグループと共に徹底抗戦の構え崩さず籠城を続けています。そして、本願寺明け渡しの時には火を放ちました。そ

のようにして、時代の波を乗り越え、先人のご苦労によつて親鸞聖人のお念佛のみ教えは現代に受け継がれてきたのです。記念法要を迎える私たちも思い新たに、この法燈を護り次代へと伝えて行きたいものであります。

浄土真宗本願寺派仏壇仏具専門店

フリーダイヤル 0120-22-8808
ハハオヤ

莊嚴仏具 高級仏壇



株式会社

智山

東京本社 東京都港区麻布十番3-6-8
☎03(3451)8808代 〒106
京都智山工房 京都市下京区西洞院六条上ル
☎075(371)8808代 〒600



西本願寺。右が阿弥陀堂、左が御影堂

一九九〇年度 活動報告

組の動きをふりかえる

■第一期「組連研」修了式

五月十二日、組連研（神奈川組連続研修会）の修了式が本願寺築地別院において行われました。教区相談員の藤沢正徳師が「連研修了後の課題」と題して記念講演。六十三年六月にスタートして二年間、全十二回の研修を無事に終え、四十八人のご門徒に東京教区教務所長より修了証が授与されました。

■第二期「組連研」開講

十月十三日、宝光寺会場を皮切りに第二期連研が始まる。組内の各寺院から、第一期より多い六十九人のご門徒が参加。隔月で十二回淨土真宗の教えを学んで行きます。

■寺族婦人連絡協議会

五月十五日（善然寺）、二月八日（高元寺）と協議会を開催。坊守さん方も横の連絡をはかっています。

■即如門主組巡教記念法座

平成元年五月に、ご門主が神奈川組にご巡教に来られたことを記念し、中部地区は五月二十三日（善教寺）、北部地区は六月二十二日（光徳寺）、南部地区七月七日（善龍寺）に法座を開催。



■神奈川組仏教婦人会連盟「めぐみ会」

六月二十六日、長念寺にて総会。合わせて「平等ということ」をテーマに、東京教区基幹運動推進委員会常任委員・野口隆嗣師の記念講演。

九月四日、善然寺において、仏婦総連盟本部講師・清岡隆文師を迎えて研修会、当日は、隣寺の宣正寺にも参拝しました。

■第十九回南ブロックお寺の林間学校

七月二十五日～二十七日、二泊三日の日程で、甲府あたご山にて開校。自然の中で子供たちはのびのびと過ごしました。これは毎年神奈川、山梨、静岡三県の寺院の協力により開催されるもので、今年は七月二十九日～三十日、横浜市金沢区の長生寺で、小学三年から中学三年を対象に実施の予定。参加希望者は所属の寺院まで。

■僧侶研修会

十一月十九日（最願寺）。「宗門法規と組織の実際」をテーマに開催。講師は本願寺内務局贊事・善藤正雄師。

■結婚

十月、宣正寺・早島大英さん結婚。

■普請

十月、善然寺本堂庫裡新築・落慶法要
十一月、常念寺会館・落慶法要
光輪寺本堂庫裡・竣工
善龍寺庫裡・竣工
高元寺庫裡増築竣工

身边にある仏教のことば

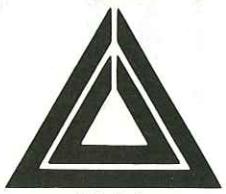
あきら

諦める

仏教では、真理や眞実のことを行ひといいます。お釈迦さまは悟りの内容を、苦諦（人生は苦であるという眞実）、集諦（苦の起ころる原因はとらわれることだという眞実）、滅諦（苦を滅した境地が悟りであるという眞実）、道諦（苦滅の境地にいたる道があるという眞実）の、四つの眞理に分けて示されました。現在では「諦」の語は「あきらめる」と読んで、見込みがない、しかたがないと断念することの意味に使われています。しかし本来は、文字通り「眞実を明らかにみる」ことを意味している言葉なのです。

つまり「あきらめる」とは、今まで見えなかつた物事の真相が、はつきりと見えてくることです。

人生の道ゆきで、かりに、自分の力には限界がある、自分はどうにもならないなどと思はれられたとしても、それは決して落胆すべきことではありません。自分がひとつあきらかになつた、一步前進したということの証でもあるのです。



お仏壇の
はせがわ

おかげさまで、業界初の株式上場

上大岡店 横浜市港南区日野5-1-25

今宿店 横浜市旭区今宿東町1621

川崎店 川崎市川崎区東田町2-1

鷺沼店 川崎市宮前区東有馬1-1-19

☎045-844-5740

☎045-951-5311

☎044-222-7577

☎044-852-1268

営業時間 午前10時～午後7時 日曜・祭日も営業いたしております。

この組報が皆様のお手元に届く頃には「湾岸戦争」はどんな局面を迎えていることでしょうか？

この原稿を書いている時点では、多国籍軍の空爆が続いて沢山の死傷者が出ている模様ですし、戦火を避けて、避難民が隣のヨルダンにぞくぞくと到着しています。また、ベトナムの避難民輸送に日本航空と全日空の「チャーター便」が救援に向かいます。そしてヨルダンのアンマンからエジプトのカイロまでは「自衛隊機」の派遣が検討され、九十億ドルの追加資金援助とともに国会は紛糾しています。

ペルシャ湾では石油施設からの原油流出で汚染が広がり「環境汚染の問題」が深刻になってきています。

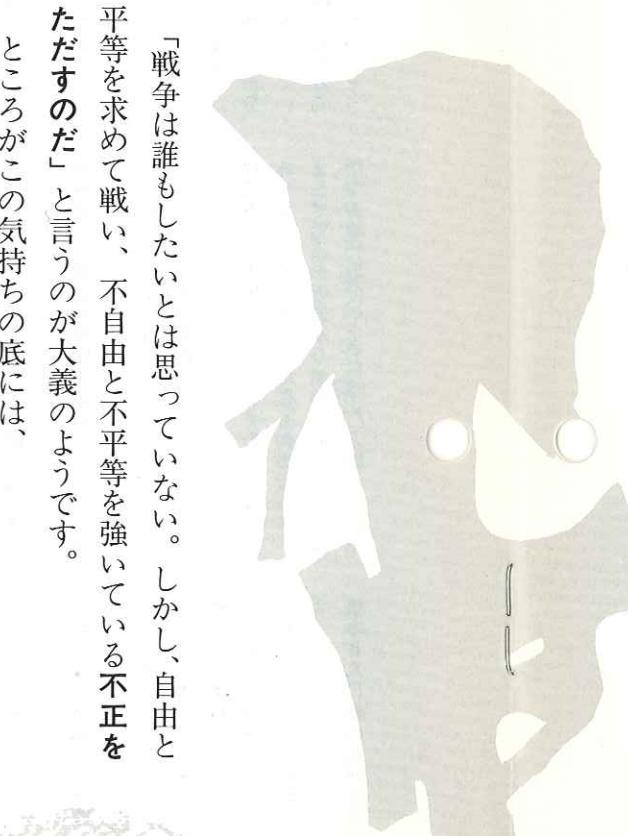
この戦争ではリアルタイムで戦況が報道されて、戦争のそのものの無意味さとやりきれなさが見る者的心に広がってきます。

世界各地で反戦・停戦の抗議行動が民衆のレベルで起っていますが今のところは大きな力にはなっています。しかし、遅くともお彼岸の頃には停戦・終戦を!! この戦争はイスラム教とキリスト教の宗教戦争、アラブ人とユダヤ人の民族戦争、アラブの国同士の貧富の格差からくる不平等感等と、根が深いことも知られました。

智慧の光に照らされて

藤田 恒爾

み教えに聞く ●●●●●



「戦争は誰もしたいとは思っていない。しかし、自由と平等を求めて戦い、不自由と不平等を強いている不正をただすのだ」と言うのが大義のようです。

ところがこの気持ちの底には、

一、自分のしていることは常に正しい、相手のしていることが間違っているのだと言う「自己の正当化」

二、いつもこっちが我慢をしてやっているのに知らん顔して、いい気なもんだ。我慢にも限度があると言う「被害者の意識」

三、だから自分のこれからすることはどんなことでも許されるのだと言う「自己の合法化」

と言う三点があります。しかも「全人類が許さなくとも、神が許し給う」と思い込みを許し与える独断の宗教は危険です。

宗教形態は様々ですが仏教、特に浄土真宗はこの三点、即ち人間の我執性の愚かさを阿弥陀如来の智慧の光に照らされて、ただただ知らされるのです。「お念仏」に支えられ、生かされ、導かれる生き方こそが真宗です。

語り合うことで お互いが育てられる

神奈川組では、一九八八年六月より組連研（神奈川組連続研修会）を実施している。これは、組内各寺院よりご門徒の方々が集まって、浄土真宗のみ教えを学ぶもので、隔月一回土曜日の午後の時間を利用し、毎回テーマを決めて議義と法座（グループに分かれての話し合い）を中心に進められる研修会である。

このほどその連研の第一期全十二回が修了した。修了者にその感想とこれから思ひなどを語っていただいた。



出席者 田中清一さん（善龍寺門徒・連研修了者）
根本 猛さん（光徳寺門徒・連研修了者）
松田ミネ子さん（善然寺門徒・連研修了者）
藤田恭爾師（長念寺住職・連研修了者）
小林泰善師（宝光寺副住職・連研修了者）

◆話し合いで信心がみがかれる
小林師 早速ですが、連研を修了しての感想ということで。
根本さん 神奈川組には、素晴らしい僧侶でありながら大学の先生という方がたくさんいらっしゃる。こういう諸先生方の講義を聴聞できたこと、また神奈川組は地理的にも交通の便がよいことなど、好条件に恵まれているから、組としての研修会が素晴らしいと思いました。

田中さん 話し合いかこんなに良いものかということがわかりました。講師の先生の話を聴聞するだけでなく、そのあとでみんなと話合の中で、自分の意見や反論や別の見かたが出てきて、切磋琢磨し合い、自分の考えを反省する。その繰り返しがよかったです。

松田さん 私は家庭の主婦、年も年ですが、連研に出席させていただいて、初めて自分の理解不足に今更ながら反省させられる次第です。連研で頂いた書物をこれから一生懸命大事にして読んでいきたい。そう

して、家庭にまたこの後ろ姿を若いものに覚えていただかなくてはとということを反省しておるようなわけでございます。

神奈川組は特に若手の僧侶が一生懸命になつたなという大きな意味もあります。今、横の連絡が、今までとは違った意味で密になつたなという大きい意味もあります。

（も何ですけど）

根本さん 連研を受けたことで、仏教の教えという尺度を頭に置きながらの日常生活、職場での作業、営業活動などの面で、なかなか自分の意見を言えないようでしたが、内滑に滑らかにいった。そういう点で感謝しています。

藤田師 最初は、話し合いで信心がみがかれることがありました。私がいくら、お寺に行つて聞法してこいと決意してあるような本が、事前に皆さんが行き渡っていたなら、と思ったときがあります。

田中さん そうですね、連研の後半になつてようやく話し合の良さがわかつてきました。ただ、浄土真宗の初步的な言葉をやさしく説明してあるような本が、事前に皆さんが用意してありました。その後ろ姿を見せるのが精一杯。

松田さん 私の場合は出来ないです。たゞ出来るのは、帰ったとき、この本を読んでも、居るところで語っています。

田中さん 私の場合は出来ないです。たゞ出来るのは、帰ったとき、この本を読んで、その後ろ姿を見せるのが精一杯。

藤田師 最初は、話し合いで信心がみがかれることがありました。私がいくら、お寺に行つて聞法してこいと決意してあるような本が、事前に皆さんが用意してありました。その後ろ姿を見せるのが精一杯。

田中さん そうですね、連研は組主催でやりました。だから、多くのお寺さんが集まつたわけですね。それといろいろなお寺を回りましたね。そのことなども含めて、組でやつたという意味がもう一つあるんじゃないかなと思います。

小林師 仏教語の専門用語については大変神経を遣いながらやつてはいるつもりなんですが、まだ私も初步でございましてちょっとわかり兼ねた面もございました。ただ、浄土真宗の初步的な言葉をやさしく説明してあるような本が、事前に皆さんが用意してありました。その後ろ姿を見せるのが精一杯。

松田さん 先生によつてよくわかる場合がありましたが、まだまだ私も初步でございまして、この程度だつたらわかるだろうという思い込みも僧侶の側にもあつたりします。

小林師 仏教語の専門用語については大変神經を遣いながらやつてはいるつもりなんですが、まだ私も初步でございました。ただ、浄土真宗の初步的な言葉をやさしく説明してあるような本が、事前に皆さんが用意してありました。その後ろ姿を見せるのが精一杯。

田中さん ほかのお寺さんの法座はどういうものがあるのか知りたいし、聞きに行きたいう思いもあります。よく妙好人の話を聞きますと、遠くのよそのお寺さんまで行つて話を聞きに行つたといいます。

各お寺さんの一年間の行事、常例とか永代経、報恩講など、いつやつているのか、行事を公表していくと有り難い。

根本さん ただし当然、永代経、報恩講といふのは前もつて連絡をもらわなきゃねえ、お齋の数など、お寺の準備の都合があるから。

小林師 やつぱりこれからは公開という組内のお寺のすべての動きがわかるようになつていかないといけない。僧侶だけじゃ

おりましたが、それを痛切に感じました。

◆出会いがひろがる
藤田師 もう一つお聞きしたいのは、連研が終つてうちへ帰つてから、今日こんなことがあつたんだぞという話をおうちでなさることはありませんか。

松田さん 私はいたしました。一生懸命忘れないうちにとおもつてね。夕飯のときと

料を、暇があつたら読んでくれよと渡してね。若いものにも思つて、嫁にも併にものにも、居るところで語っています。

田中さん 私の場合は出来ないです。たゞ出来るのは、帰つたとき、この本を読んで、その後ろ姿を見せるのが精一杯。

藤田師 ところで、連研は組主催でやりました。だから、多くのお寺さんが集まつたわけですね。それといろいろなお寺を回りましたね。そのことなども含めて、組でやつたという意味がもう一つあるんじゃないかなと思います。

小林師 ところで、連研は組主催でやりました。だから、多くのお寺さんが集まつたわけですね。それといろいろなお寺を回りましたね。そのことなども含めて、組でやつたという意味がもう一つあるんじゃないかなと思います。

田中さん 勿論あります。会場寺院を持ち回りにしたことによって、そのお寺さんに親しみができましたね。いい掛け軸がある、やれいい部屋がある、うちの法座をする場所は狭いから広げようとか、建物のことやら話し合いの事やらいろんなことが回りを見ることによって見聞が広がつてくるのです。

根本さん 組の連研でもつていろんな先輩

なくしてご門徒も一緒に交流することができるようですね。そういう状況というのができてこなきやいけない。

松田さん 去年、善然寺では落慶法要がございましたが、そのときなど組内の各お寺からご門徒が二、三人でも参加していただけたらしいと思いました。

藤田師 お話を伺いながら反省点を我々も勉強させてもらいました。やはり坊さん仲間だけで話してはいるよりも、生の声を聞かせてもらうということの貴重さを、私なりに認識させて頂いたことあります。

今日は本当に忙しいなかお寒いなかございました。

（一九九一年二月二日、於宝光寺）

「十二の問い合わせ」をテーマに 第一期神奈川組連続研修会記録 (期日・会場・テーマ)

第1回 88年6/18 宝光寺 世の中にはどうしてさまざまな宗教が存在するのだろうか。ゆきつくところはみんな同じではないのか。

第2回 8/20 宝光寺 真宗ではどんな悪人も救われるというが、それは世間の道徳と矛盾するのではないか。

第3回 10/15 善龍寺 地獄とか浄土とかはほんとうにあるのか。あるとすれば、この世か死後か。またどんな状態であるのか。

第4回 12/17 善龍寺 とても熱心な真宗者でも、苦しみの多い人生をすごしたり、不慮の死をとげる人があるが、どう考えたらよいのか。

第5回 89年2/18 宝円寺 信心をえたら少しは人間が変わるとか、それとも変わらないのか。もし変わるとすればどう変わるのか。

第6回 4/15 宝円寺 他力本願では人生は生きてゆけない。やっぱり自力本願でなければならぬと思うが、どうか。

第7回 6/17 長念寺 救われるといつても何も具体的に状況がわかるということではあるまい。要は心のもちかたの問題ではないのか。

第8回 8/19 宝光寺 仏法の話を聞いていたときにはそれなりに有難い気持ちになるが、日常生活の中ではいっこうにそんな思いが生まれてこないが、これでよいのか。

第9回 10/28 最願寺 本願寺教団が、とくに同朋運動に力をそそいでいるのはなぜか。

第10回 12/16 最願寺 真宗者の中には、その生活実践において信心と生活が一致しない人がある。信心と生活とは無関係か。

第11回 90年2/17 最願寺 真宗では仏壇のほかに神棚をまつってはいけないというが、なぜか。

第12回 4/21 宝光寺 信心は自分一人の問題である。それを無理に他人にすすめる必要はないのではないか。

修了式 5/12 築地本願寺

浄土真宗本願寺派——神奈川組

わたしたちのお寺です



円光寺	〒210 川崎市川崎区台町4-21 石川 康承 ☎044-266-2677
宝円寺	〒210 川崎市川崎区境町5-10 飯田 琢亮 ☎044-222-3941
光徳寺	〒210 川崎市川崎区京町1-14-3 林 信順 ☎044-333-3997
正樂寺	〒210 川崎市幸区南幸町2-49 佐々木泰博 ☎044-522-1961
高元寺	〒211 川崎市中原区宮内715 宮本 義孝 ☎044-777-6544
長念寺	〒214 川崎市多摩区登戸1416 小林 泰善 ☎044-911-2549
常念寺	〒215 川崎市麻生区栗木203 古市 溪峰 ☎044-988-0205
善龍寺	〒221 横浜市神奈川区斎藤分町33 斎藤 幸紹 ☎045-491-9431
東善寺	〒223 横浜市港北区中川町1440 長谷尾芳雄 ☎045-911-3509
寿福寺	〒223 横浜市港北区茅ヶ崎町1026 多田 晨向 ☎045-942-3765
善教寺	〒223 横浜市港北区新羽町2396 平等 通昭 ☎045-541-7684
教覚寺	〒223 横浜市港北区新羽町2395 平等 真証 ☎045-531-5050
光輪寺	〒223 横浜市港北区下田町3-2-9 村石 恵照 ☎045-561-8671

「神奈川組」とは…

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

組 長／永野 弥然
副組長／林 信順
副組長／斎藤 幸紹
教区会議員／藤江 昭道



貴重な仏教美術を展示

善教寺（横浜市港北区新羽二三九六）

お寺を訪ねて (3)

東横線大倉山駅よりバスに乗り約十分。大竹停留所を降りるとすぐに善教寺はある。今はまだ人家もまばらで緑豊かなところだが、数年後には新横浜から地下鉄が延びるということもあり、町並みも変わりつつあるところである。

歴史を感じさせる木造の本堂と山門。それは対象的に、右手には鉄筋コンクリート造り三階建の「善教寺会館」が目に入る。この

特に美術室には、平等住職がインドに留学していた大正時代末から収集し始めたとい、ガンダーラや中国六朝時代の仏像、タイ国の仏像など、各国に歩き求めた美術品が数多く展示されている。

なかにはインド留学中、旅行に携行したとい赤痢の伝染病防止の特殊な水瓶や、折り畳み式小型仏壇など、一般の美術館や博物館には見られない珍しい展示品もあり、一見の価値がある。

会館は昭和五十七年に、同寺の平等通昭住職が八十歳という高齢をおして文学博士の学位を取得されたことを記念し、ご門徒からのたらきかけにより翌五十八年に完成したものである。

同会館は、一階が受付、ロビー、仏間、休息室、洋室二部屋となっていて、階上には、美術室や多目的ホール、大蔵経の揃つた図書室、講義室、そして納骨室と、施設は充実している。平等住職は学者として、八十八歳の今でも専門分野である梵語の講義をここで続けている。

Creative Travel & Heartfelt Service

- 旅の創作
- リムジン観光バスの販売
- 海外旅行業務
- 国内旅行業務

- マジカルツアーリムジン
- 一流ホテルに泊ってリムジンバスで行く東京ディズニーランドの旅



東京都中央区日本橋堀留町1-8-11 TEL03-5695-0606 FAX03-3665-7214

仏事のこころえ

念珠を大切に

仏壇の前に座つて手を合わせてあるあなた、ちよつと手を見て下さい。あれ、何か忘れていませんか？お気づきになりましたか。大事なものをおひとつ忘れていましたね。そう、お念珠（珠数とも言う）です。念珠について蓮如上人は、『御文章』の中で「数珠の一連をもつひとなし。さるほどに仏をば手づかみにこそせられたり。聖人まつたく『数珠をすてて仏を拝め』と仰せられたことなし」（数珠を持たないでお参りする人は、仏様を手づかみにするようなものです。親鸞聖人も数珠を持たずに仏様を拝みなさいなどと申されたことはありません）といわれています。ですからお寺にお参りする時や、仏壇にお参りする時は必ず念珠を持ちましよう。念珠は、阿弥陀様を礼拝し仰ぎ見る大切な法具ですから、いつもていねいに扱いましょう。決して畳の上や床の上などが歩くところには直接置かないようになります。もしどうしても置かなければならぬ時には、念珠袋・ハンカチ等必ず下に何か敷いて、その上に置いて下さい。（もちろん聖典も同様です。）

お釈迦様のご説法の中にも念珠の珠の数や、その作り方が説かれていますヨ！もし紐が切れてしまつたら修理して頂いて、大切に使いたいのですね。

◆早いもので組報も第四号を迎えました。神奈川組の行事も年々増え、ご門徒の方々と接する機会も多くなり、本当に有り難いことと感謝しています。今後とも皆様と一緒に、仏法に耳を傾けていただきたいと思ってます。

◆湾岸戦争に思う。フセイン大統領いわく「この戦争は神のみぞ知る」。言われて困っているのは神である。

◆プロパガンダに利用される戦時の宗教団体の責任を考える。先の大戦時、浄土真宗も含めて日本の宗教は戦争に利用されっぱなしだった。

◆連研修了者座談会多くの貴重な意見を頂きました。ほんの一部しか載せられないのが残念。

◆組のスタッフに、二十代前半の新人二名が加入。活躍を期待します。

(Y・M)

◆『組報かながわ』は、川崎市と横浜市北部・中部に散在する浄土真宗本願寺派の寺院が協力して編集している、ご門徒のための広報誌です。皆様からのご意見・ご希望などお寄せ下さい。

(D・H)

編集後記



浄土真宗本願寺派（西本願寺）

組報かながわ No.4

■発行日 1991年3月15日
(毎年1回3月発行)

■編集発行 浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
基幹運動推進委員会

〒232 横浜市南区大岡2-26-17 善然寺内